

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：10月英国消費者物価

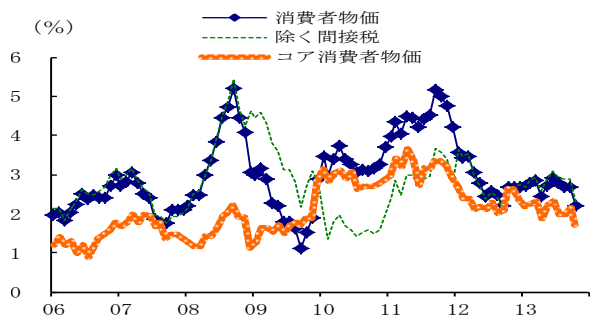
発表日：2013年11月13日(水)

～グローバル・デスインフレーション～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 首席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

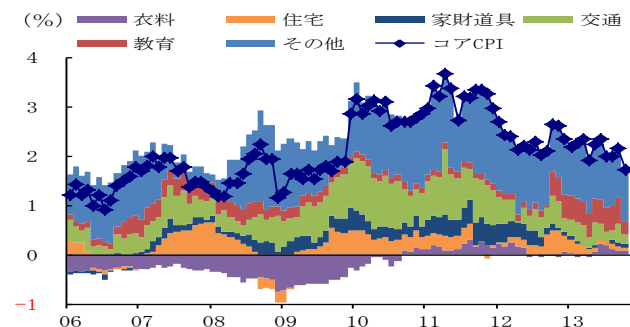
- ・ ユーロ圏に続き、10月の英国の消費者物価も下振れ。前年比の上昇率は9月の+2.7%から+2.2%へ大幅に縮小した。エネルギー価格（同+3.4%→同+2.2%）だけでなく、コア物価（同+2.1%→同+1.7%）の上昇率が縮小。エネルギー価格の内訳は、住宅用燃料（同+7.7%→同+7.7%）が上昇基調が持続するなか、自動車燃料（同▲1.6%→同▲4.3%）の下落率が大幅に拡大した。コア物価の上昇率縮小には、医療費（同+2.9%→同+2.6%）、自動車（同▲0.5%→同▲1.6%）、輸送サービス（同+6.5%→同+4.4%）、教育（同+21.5%→同+10.3%）などが効いている。なかでも、大学の学費値上げが一服したことで、物価全体に0.2%ポイントの押し下げ要因となった。
- ・ 今回の計数下押しに影響した教育費のトレンドが大きく変わる可能性はない一方、電力料金の値上げが発表されており、目先の物価上昇率はやや最加速する可能性がある。ただ、税率変更などの押し上げ要因が予想されないほか、このところのポンド高も加わり、物価上昇率は既にピークを打った模様。
- ・ 今月の物価下振れは、8月時点のBOEの物価見通し（10-12月期に同+2.9%）を下回る。BOEは13日発表の物価レポートで、景気見通しを引き上げる一方で、物価見通しを引き下げる公算が大きい。失業率の予想を上回る改善が続いており、この点からの利上げ時期の前倒し観測が高まりやすい状況が続いている。だが、18～24ヶ月先のBOEの物価見通しがフォワードガイダンスのロックアウト条項を満たす可能性は遠退き、物価面からは早期利上げの必然性はやや薄れてきた。

■英国：消費者物価（前年比）



注：コア物価は食料・タバコ・アルコール・エネルギー除く  
 出所：英統計局

■英国：コア消費者物価の要因分解（前年比）



出所：英統計局

■英国の消費者物価（%）

	2012				2013							
	4Q	1Q	2Q	3Q	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
消費者物価（前期比）	1.2	0.5	0.7	0.3	0.3	0.2	0.2	-0.2	-0.0	0.4	0.4	0.1
（前年比）	2.7	2.8	2.7	2.7	2.8	2.4	2.7	2.9	2.8	2.7	2.7	2.2
コア消費者物価（前年比）	2.5	2.3	2.2	2.0	2.3	1.9	2.2	2.3	2.0	2.0	2.1	1.7
食料品（前年比）	3.7	3.8	4.2	4.1	3.7	4.6	4.3	3.8	3.8	4.1	4.3	4.0
アルコール（前年比）	2.0	3.5	3.3	4.0	1.3	2.5	3.3	4.2	5.0	4.1	3.0	3.1
タバコ（前年比）	9.0	9.4	7.6	6.8	9.4	7.4	7.8	7.5	6.7	6.9	6.7	6.5
エネルギー（前年比）	1.0	3.4	3.3	4.6	4.0	2.3	2.7	4.8	5.5	4.8	3.4	2.2
住宅用燃料（前年比）	1.0	6.2	7.7	7.9	7.3	7.5	7.5	8.0	8.1	7.7	7.7	7.7
自動車燃料（前年比）	1.1	0.0	-1.9	0.7	0.1	-3.7	-2.9	1.0	2.4	1.3	-1.6	-4.2

注：消費者物価の前期比は季節調整前。コア消費者物価は食料・アルコール・タバコ・エネルギーを除く。  
 出所：英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。